

C ' S M A I L

VOL. 65

 **コスモ石油株式会社**

株主通信 《シーズ・メール》

SPRING 2010



中東産油国との友好関係を基盤に、 国内・海外市場の変化を先取りした グローバルビジネスを展開します

今回は、中東に関する専門家である財団法人国際開発センターの畑中美樹様をお招きして、中東の経済や原油価格の動向、中東の発展に向けて日本に求められること、コスモ石油の成長戦略などについて、当社の木村社長と意見交換をしていただきました。

中東の経済動向と 原油価格の見通し

木村▶畑中さんは、中東にとでもお詳しいですが、どのくらいの頻度で訪問されているのですか。

畑中▶私は毎月、湾岸の国を中心に中東に行っています、毎回10日間ぐらいいは向こうにおります。木村社長はいかがですか。

木村▶私は中東を含め、海外には年3~4回程度行っていますが、今日は最新のお話をうかがえることを楽しみにしていました。早速ですが、昨今の中東産油国の経済動向について、どう

ご覧になっていますか。

畑中▶世界銀行が1月20日に発表した「世界経済展望2010年」によれば、中東諸国の実質経済成長率は2008年の4.3%から、2009年には2.9%に低下しました。これは、2008年の世界金融危機で世界経済が停滞したことを受け、石油需要が落ち込んだためです。しかし世界銀行は、中東の実質経済成長率は2010年に3.7%、2011年には4.4%に回復すると予測しています。世界経済が回復に向かうとともに、中東産油国の石油・ガス生産量が増加し、これが石油収入の増加につながると見て

Cover Story

カバーストーリー

●上海

表紙のイラストは、万国博覧会が開催されている成長著しい中国・上海をモチーフにしました。歴史的庭園である豫園(ヨエン)や龍華古寺などの建築物と近代的な高層ビル群をコラボしてデザインしました。

コスモ石油グループでは、中国市場でALA入り液体肥料の販売等を展開しています。

表紙イラスト 古田 忠男



財団法人 国際開発センター
エネルギー・環境室研究顧問

畑中 美樹 氏 (左)
Yoshiki Hatanaka

コスモ石油株式会社
代表取締役社長

木村 彌一 (右)
Yaichi Kimura

いるからです。

木村▶ ドバイショックについては、どのような見方をされているのでしょうか。

畑中▶ 世界銀行や国際通貨基金（IMF）などの国際機関では、課題はあるものの見通しは明るく、5～7年で債務を返済すると見えています。またドバイについては、2010年の実質経済成長率は0～1%の横ばいと予測していますが、アラブ首長国連邦全体で見ると、アブダビがプラス成長をすることで十分補われるという見方です。さらに10年後には、湾岸協力会議（GCC）諸国の経済は、現在の2倍の2

兆ドル（約180兆円弱）に拡大すると見られています。そうになると、世界経済において、中東が一定の存在感を示すことになります。

木村▶ 私自身も大変気になるところですが、投機マネーを含めて、原油価格の動向についてはいかがですか。

畑中▶ 原油価格は、2008年7月に1バレル当たり147ドル以上になり、わずか5カ月後の2008年12月には34ドル程度に低下しました。これは、巨額の投機マネーが原油先物市場に流入したことで原油価格を極端に引き上げ、その後、短期間に

流出したことで大きく引き下げたためです。このところ原油価格は1バレル当たり70～80ドル超の水準で推移していますが、需給の両面で不透明感が増しているように思えます。それは、安価な原油の大半がサウジアラビアやイラクなど湾岸の産油国に偏在しており、しかも、これらの国の多くで「資源ナショナリズム」が高まり、国際石油企業に対してはほぼ門戸を閉じているためです。中長期的に見ると70ドル程度が、産油国にとっても妥当で、また消費国にとっても受け入れられる水準だと考えます。

若年化・人口増が進む中東では
投資や教育を通じた日本への
期待が高まっています。



● 畑中美樹氏プロフィール
慶應義塾大学卒業後、富士銀行入行。
中東経済研究所カイロ事務所長を経て(財)国際開発センター、エネルギー・環境室研究顧問。株式会社ジェイ・エル・エナジー代表取締役。著書に「オイルマネー」(講談社)など多数。

中東における
信頼関係の構築

畑中▶ところでコスモ石油は、どのようにして中東と緊密な関係を築いてきたのですか。

木村▶1つは、アブダビ、カタールからは原油を長期的、安定的に供給していただいているという関係があります。さらにアブダビでは40年以上、カタールでも15年ほど前から、原油の開発を手掛けてきた背景があります。

畑中▶長いお付き合いですね。

木村▶ええ。私たちは石油ビジネスに留まらず先方のニーズに従って、環境対応や文化交流、教育支援など、様々な分野に着実に取り組むことで信頼関係を築いてきました。そういったことが礎となって、IPIC*との資本提携もできたのです。中東では、長いお付き合いというのが大切だと感じています。

畑中▶新しい油田の開発についてはいかがですか。

木村▶コスモ石油は、原油のほとんどを中東からの輸入に頼っています。やはり石油の事業は、精製などの下流部門だけではなく厳しいので、原油開発な

どの上流部門を含めた一貫体制をとることが必要になっています。我々は、古くからお付き合いがあって、埋蔵量の多いアブダビとカタールをコアエリアとして、またオーストラリアをサブコアエリアに原油開発をしています。中東の国々の中でもアブダビとカタールは外資の導入に積極的です。今後もアブダビ、カタール、オーストラリアでの原油開発に注力していきます。

畑中▶アブダビとカタールは、中東でも一番親日的ですね。両国とも産油国の中では、オイルマネーという資産をきっちり残していますし、着実な発展が期待できる国です。この2つの国と良好な関係を築くのは、非常にプラスになると思います。

木村▶ありがとうございます。カタールでは石油開発を進めていますが、まだ始めて間がないですし、また石油開発というのは、そう計画通りに進むものでもありませんので、あちらの政府にご迷惑をかけることもあります。それで、この間政府の方にお会いした時に、「いろいろご迷惑かけています」と言ったら、「いい時も悪い時もあるか

ら、長くやっていこう」と。そのようなことを言うていただくと、本当に嬉しくなります。

畑中▶それはありがたいですね。産油国との文化交流についてはいかがですか。

木村▶教育関係などで協力をさせていただいています。1つはアブダビの日本人学校に、NPOが中心となって、企業が協賛し、現地の児童を受け入れています。もう1つは、これはコスモ石油グループで行っている事ですが、アブダビの公立小学校に日本語教師を2名派遣しています。ともにアブダビが望んでいる国際化・人材育成を支援するかたちになりますね。

畑中▶グローバル化した国際社会の中で、中東諸国は、もう少し広い目で物事を見られる国民をつくらなくてはならないという意味で、外国の教育システムの導入や、外国の学校を招へいしようとしているのかもしれないですね。

木村▶そういうニーズは非常に高いです。それと、日本の躰や礼儀を、すごく尊敬していますね。

畑中▶そうですね。やはり欧米にも良い部分はあって、欧米の

ビジネススクールや大学へ行かれる方も多いのですが、善し悪しもあります。その点、独自の成長をしてきた日本に学びたいということは、確かにあると思います。また、中東の国々では、ここ30年間で医療や保健の水準がずいぶん良くなり、出生率が上がって人口が急に増えています。人口に占める若い人の比率が非常に高く、日本の高齢化とは逆の若齢化社会になっているのです。自分たちでも一生懸命に産業を育成して雇用を創出しようとしていますが、それだけでは追いつかないので、諸外国に投資をしてもらって産業を育成しようとしています。日本にも、大きな期待が高まっていると思います。

木村▶カタールでは、工業化と都市化が同時に進んでいて、すごく勢いがありますね。アブダビは工業化がある程度進んで、今は都市化を進めているところです。現在、アブダビにおいては、アブダビ石油、合同石油開発などで40名程度のコスモ石油社員が活躍しています。若年層の人口が増えていることを考えると、現地の若者をもっと活

国内の需要減という市場の変化を、グローバル市場での成長のチャンスに変える戦略を展開しています。



コスモ石油株式会社
代表取締役社長
木村 彌一

シーズ・メール対談

Dialogue

用してほしいということになってくると思います。

国内石油製品の需要減対策とグローバル戦略

畑中▶ 日本の場合は高齢化社会に入って、国内の石油製品の需要が減ってきていますが、将来の戦略について聞かせてください。

木村▶ 世界の人口が増えるとともに世界の石油需要も増えていきますが、日本は逆に減っていきますから、海外の事業展開を強化することで国内の需要減を補います。石油会社として、世界市場を視野に入れた事業展開をしないと、石油事業はコア事業にはなり得ません。ですから、基本的には、国内はできるだけ効率化して、競争力のある製油

所にする。そしてその競争力を活用して、海外展開をしていく戦略を描いています。

畑中▶ 具体的にはどのようなことを？

木村▶ 1つは国内の重油の需要減に対応するために、堺製油所で重質油分解装置群を建設しました。これによって、需要減の著しい重油留分から、軽油や灯油、ナフサを生産し、海外販売の強化を図っていきます。また、エコカーなどの増加によって、国内のガソリン需要そのものが減っていきます。これに対応してガソリン留分から、化学繊維やPETボトルの原料であるパラキシレンを生産し、成長市場である中国やインドに供給していきます。これについては、韓国ヒュンダイオイルバンクと組んでHCベトロケムという合弁会社をつくり、今年の2月から営業を始めています。2013年には年間118万トンのパラキシレン事業を確立しようと取り組んでいるところです。

畑中▶ 石油製品は、どこに輸出しているのですか。

木村▶ 日本の石油製品は、硫黄分が少ないなど品質に優れてい

ますので、主に先進国、例えばオセアニアやアメリカ西海岸、それから最近では南米にも供給しています。しかし、将来的には、アジアにも輸出していくことになると思います。

環境分野の新規ビジネス展開について

畑中▶ ところで今、ムバダラ開発*というアブダビの政府系機関は、マスタール・イニシアチブと呼ばれる太陽光などの再生可能エネルギーの推進事業に取り組んでいます。アラビア語で源流、エッセンスということをする「マスタール」と言いますが、彼らは、マスタールシティという二酸化炭素を排出しない都市をつくるべく、諸外国の企業に協力を求めています。御社も協力しているのですか。

木村▶ はい。マスタールと当社がプロジェクトオーナーとなり、東京工業大学の技術を活用して、集光太陽熱発電の実証実験をやっています。砂漠などのサンベルト地帯では、非常に有効な発電システムになると思います。アブダビでは、太陽エネルギーを内需で使い、石油など



の資源は消費国に提供するという循環を考えているわけです。私はこの集光太陽熱発電システムの竣工式に行きましたが、砂漠の夜があんなに寒いとは思いませんでした。このシステムの長所は昼間に熱を蓄えて、昼夜を問わず発電できる点なのですが、この蓄熱の技術の大切さを、身をもって感じましたね。

畑中▶確かに冬の夜の寒さは、一般の砂漠のイメージとはかけ離れていますね。先程も申しましたが、中東では人口が増加しているために、日本でいう公共サービス、水や電気に対するニーズが高まっています。今までのように海水を淡水化して水をつくっているだけでと費用もかかりますので、循環利用しようとか、電力についても、太陽や風力といった再生可能エネルギーを取り入れていこうという動きがあります。この辺でも、日本の技術に対する期待が高ま



っていると思います。ところで新エネルギーのほかにも、新たなビジネスをお考えですか。

木村▶石油事業を補うという意味で、新しい事業に取り組んでいます。基本的に我々の知見のある環境分野で取り組んでいます。アブダビでの集光太陽熱発電事業もそうですが、特殊なものではALA*というアミノ酸を利用した事業があります。テレビコマーシャルなどでも紹介していますけれど、ALAを配合し

た農業用の液体肥料やガーデニング用の肥料などを製造・販売しています。将来的には医療品、化粧品、健康食品など様々な分野で貢献できればと考えています。

株主の皆様へ

畑中▶最後に株主の皆様へのメッセージはありますか。

木村▶コスモ石油は、国内の石油事業の効率化を進めることで、国内の石油製品需要減少という市場の変化を、成長に向けたチャンスに変えていきます。また、原油開発や石油・石油化学事業に軸足を置きながら、ALAや再生可能エネルギーなどの新規事業も積極的に展開していきます。さらに、環境保全や社会貢献活動に取り組むことで、株主の皆様をはじめとする、すべてのステークホルダーの方々に貢献していきます。今後も、変わらぬご支援をお願いいたします。

用語解説

※IPIC

アブダビ首長国政府が100%出資するエネルギー関連投資会社。当社の第三者割当増資を引き受け、約20%当社株式を所有。

※ムバダラ開発

アブダビ首長国政府が100%出資する産業育成会社。過去数年の間に、「次世代エネルギー」や「先端企業」に集中投資しています。

※ALA (5-アミノレブリン酸)

天然のアミノ酸の一種で、生物の生長促進に大きな役割を果たします。コスモ石油はALAの原体供給とALAを配合した商品の開発を行っています。

※詳細は11頁を参照ください。

「安全操業と安定供給を基本に、 社会から信頼される製油所づくりに 全力をあげています」



コスモ石油は千葉、四日市、堺、坂出の
4製油所で、石油製品の生産を行っています。

今回は、千葉縣市原市の京葉臨海工業地帯で操業する千葉製油所の岩名所長が
製油所の機能や環境対策、地域交流などについてご紹介します。

執行役員 千葉製油所長
岩名利憲

Q：千葉製油所の特長は

——コスモ石油最大の原油処理能力を持ち、関東以北に石油製品を安定供給しています。

千葉製油所の沖合14kmにある日本最大級の海上栈橋「京葉シーバース」には、30万トンクラスの大型タンカーが毎週1回のペースで接岸し、直径1.2mの海底配管を經由して、約30時間をかけて原油を荷揚げしています。千葉製油所はコスモ石油で最大、日本でも5番目となる、1日22万バレルの原油処理能力を持つ製油所です。また、2系統の生産設備を持つことで、装置の

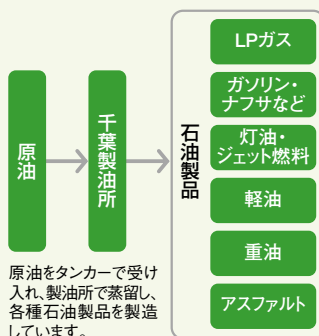
定期整備時にも生産を止めることなく、製品を安定供給し続けることができます。また、国内はもちろん、海外へ軽油やジェット燃料を輸出するための体制も確立しました。

Q：安全操業の取り組みは

——安全操業と製品の安定供給は製油所の使命です。

製油所においては、安全が確保できなければ、お客様に安定的に石油製品をお届けすることはできません。安全操業を実現するために様々な運動を展開しています。例えば、曇りの日の作業には照明を用意するなど、天候や環境の変

■製油所における石油製品の製造



化等に伴って発生する危険を全員で事前に抽出し、予防する「KY（危険予知）活動」をベースとするゼロ災運動の徹底をしています。一人ひとりが高い安全意識を持ち、基本事項・ルールを徹底遵守することで、安全操業と安定供給という使命を果たしています。

Q：環境保全の取り組みは

——排水処理設備からの産業廃棄物を減らす取り組みを行っています。

大気や水質の汚染を防ぐために、法令を遵守することは、製油所を操業する前提条件です。また、可能な限り廃棄物を減らすことも大きな課題です。千葉製油所から排出される最大の産業廃棄物は、排水処理施設から出る余剰汚泥で、年間500トンに上っていました。2010年の春から、中央研究所が開発したプロセスを導入し、余剰汚泥の排出を年間

100トンまで減らす予定です。これにより廃棄物処理のコストも削減することができます。

Q：地域との交流や社会貢献活動は

——町内会との情報交換を図り、少年野球や環境教育を支援しています。

千葉製油所では、近隣の6町内会と定期的に操業情報交換会を実施し、地域の皆様に安心していただける安全な製油所をめざしています。また、地元の「五井臨海祭り」への参加や、小学生を対象とした「飛燕杯争奪少年野球大会」の開催など、30年以上続けている活動もあります。

近年では千葉県からCO₂吸収量認証をいただいている「コスモの森」の整備を推進しており、社員が参加して里山の整備を行い、近隣の小学校の環境教育にご活用いただくなど、環境保全や環境教育にも力を入れています。



日本最大級の海上栈橋「京葉シーベース」



排水処理装置で余剰汚泥を80%削減予定



1976年から開催している少年野球大会



小学生の環境教育も開催される「コスモの森」

■千葉製油所

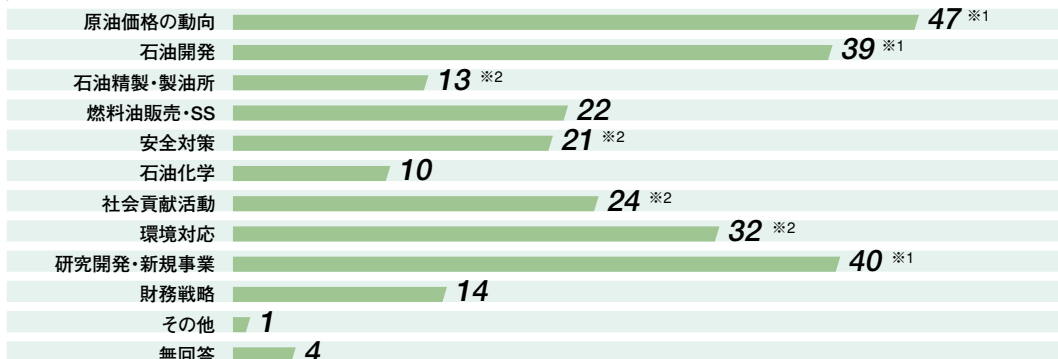
千葉県市原市五井海岸2番地

- 操業開始年月 1963年2月
- 面積 1,168,768㎡
(東京ドーム約25個分)
- 原油処理能力 220,000バレル/日
(1バレル=159リットル)

コスモ石油について、 関心をお寄せいただいている 項目についてご説明します

シーズ・メール63号のアンケートに、約7,300通のご回答をいただき、ありがとうございました。皆様から関心をお寄せいただいている項目について、ご説明させていただきます。

読者アンケート「当社に関連する興味がある情報」の集計結果 (複数回答) (単位:%)



※1 社長対談(2~7頁)に関連情報の記載があります。

※2 製油所紹介(8~9頁)に関連情報の記載があります。

▶ 石油化学事業の取り組み

Q ヒュンダイオイルバンクとの合併事業の現状はどうなっていますか。
(40代男性) —他6名

A HCペトロケムは、パラキシレンの生産販売を開始しました。

コスモ石油は2009年10月、韓国の石油精製販売会社であるヒュンダイオイルバンク(株)(HDO)と合併事業契約を締結しました。同年11月に、パラキシレンの製造販売を行う合併会社HCペトロケムを韓国にて設立し、2010年2月に

HDOより既存のパラキシレン製造装置(38万トン/年)の譲渡を受け、生産・販売を開始しました。2013年にはパラキシレン製造装置(80万トン/年)の新設を予定しています。また、この装置の原料となるミックスキシレンを供給するため、四日市製油所内にミックスキシレン蒸留装置(2011年稼働予定)の準備も進めています。



パラキシレン製造装置

▶ 新規事業の取り組み

Q 新規事業の取り組みについて知りたいです。(30代女性) — 他11名

A ALAを配合した商品を積極的に開発しています。

ALA (5-アミノレブリン酸) は、天然のアミノ酸の一種で、生物の生長促進や人間の健康維持に大きな役割を果たします。コスモ石油は、ALAを配合した商品の開発とALA原体の供給を行っています。商品としては、ALAを配合した液体肥料「ペンタガーデン」を国内外で発売。化粧品は、ALAを保湿成分とした「花蜜クリーム」、「アルサイエンス」、「ララ・ソロモン」をSBIアラプロモ(株)が開発・販売し、コスモ石油がALAの原体をSBIアラプロモ(株)に供給しています。

●ALA配合の液体肥料
「ペンタガーデン」シリーズ
<お取扱店舗>

★コスモ誠和アグリカルチャ(株)
のホームページに接続されます。

http://www.pentakeep-world.com/pentagarden/index_shop.html
<インターネット販売>

★(有)タカ・グリーン・フィールズ
のホームページに接続されます。
<http://www.taka-greenfields.com/eshop/>

●ALA配合の美容クリーム
「花蜜」、「アルサイエンスシリーズ」、
「ララ・ソロモンシリーズ」
<インターネット販売>

★SBIアラプロモ(株)のホームページに接続されます。

<http://www.sbi-alapromo.co.jp/>
(ララ・ソロモン、アルサイエンス、花蜜)

★サステナブル・クルー(株)のホームページに接続されます。

<http://www.hana-mitsu.com/>
(花蜜)

★コスミック製薬(株)のホームページに接続されます。

<http://www.alscience.com/index.html>
(アルサイエンス)



家庭用液体肥料 家庭用液体肥料
「ペンタガーデンPRO」「ペンタガーデンValue」



美容クリーム
「花蜜クリーム」



アルサイエンスシリーズ



ララ・ソロモンシリーズ

コスモSS新店舗 オープン情報

2009年12月から2010年4月にオープンしたコスモ石油のサービスステーションを紹介します。

■12月オープン

- ◎セルフ米ノ津SS 鹿児島県出水市
- ◎カーケアセルフ栗東西SS 滋賀県栗東市
- ◎セルフ&カーケア東長戸SS 愛媛県松山市

■1月オープン

- ◎セルフ藤岡SS 愛知県豊田市
- ◎セルフピュア飯岡カインズSS 千葉県旭市

■2月オープン

- ◎セルフ&カーケアステーション富里日吉台SS 千葉県富里市

■3月オープン

- ◎セルフピュア安城小川SS 愛知県安城市
- ◎セルフ新大崎SS 鹿児島県曽於郡大崎町
- ◎セルフ&カーケアステーション菖蒲SS

- 埼玉県久喜市
- 福島県南相馬市

■4月オープン

- ◎東久留米SS 柳窪 東京都東久留米市
- ◎妻沼小島SS 埼玉県熊谷市
- ◎セルフ湯之元SS 鹿児島県日置市

※店舗の詳細は、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/open/index.html>

2010年3月期 業績予想の修正について

(2010年4月28日公表)



代表取締役会長 代表取締役社長
岡部 敬一郎 木村 彌一

2010年3月期の連結業績予想を下記の通り、修正いたしました。業績予想修正の主な要因は、前回想定（2009年11月4日公表時、原油価格66.8ドル/バレル、為替レート92.8円/ドル）と比較し、原油価格の上昇に伴い在庫評価の影響による増益要因があったものの、製品市況形成の遅れによるマージンの悪化等の減益要因があったことによるものです。また、当期純利益に関しては、将来の課税所得を保守的に見積もり、繰延税金資産の一部を取り崩しました。

●2010年3月期の期末配当について

2010年3月期の期末配当は8円を予定しています。株主の皆様には、今後とも一層のご理解・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

※2010年3月期の決算につきましては5月10日に発表となっています。詳細は下記URLよりIRライブラリーをご参照ください。 <http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/lib/index.html>

■2010年3月期連結業績予想数値の修正(2009年4月1日~2010年3月31日)

(単位:億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)(2009年11月4日発表)	26,000	580	610	200	23.61円
今回修正予想(B)	26,000	340	360	-110	-12.98円
増減額(B-A)	0	-240	-250	-310	—
増減率	0.0%	-41.4%	-41.0%	—	—
前期(2009年3月期)実績	34,282	-1,070	-1,250	-924	-109.11円

※億円未満は切り捨てています。

ニュース・ヘッドライン

News Headline

当社が発表した最近のニュースについて、主な項目と内容の一部をお知らせします。

詳細は当社のホームページからご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

2010年

4月20日	特約店の業務効率化・SS運営管理をサポートする当社システムが ビジネスモデル特許を取得について	
4月7日	カタール国ラファン製油所の竣工記念式典開催について	
3月29日	合同石油開発株式会社の株式追加取得について	
3月23日	セルフステーション長曽根サービスステーションにて大阪府初の 電気自動車(EV)用急速充電器を設置	
2月23日	企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)への加入について	
2月18日	堺製油所重質油分解装置群の竣工式開催について	2
2月9日	エコ・パワー株式会社の株式取得(子会社化)に関するお知らせ	3
2月1日	原油処理能力の削減について	
1月26日	子会社(コスモエネルギー開発株式会社)の吸収合併に関するお知らせ	

2009年

12月28日	第12回「日経アニュアルリポートアワード」に入賞	1
12月21日	長期入院中の子どもたちに励ましのメッセージを贈る「コスモ・クリスマスカード・ プロジェクト2009」実施のご報告	
12月1日	「Jazz Night @ 魚籃寺」チャリティ・ジャズコンサート実施(協賛)のご報告	
11月27日	「エコプロダクツ2009」出展のご案内	
11月16日	「森林整備によるCO ₂ 吸収量認証制度」に基づく認証取得について	
11月16日	「第16回大阪ヨーロッパ映画祭 ~キンダーフィルム特集~」特別協賛のご報告	

※ニュースの内容により色分けしています。 [トピックス](#) / [CSR・環境](#) / [IR](#) / [社会貢献&メセナ活動](#)

※上記の日付はプレスリリース日です。

1 第12回「日経アニュアルリポートアワード」に受賞

当社は、株主および投資家の皆様に、年次の業績などをお知らせするアニュアルリポートを制作しています。「日経アニュアルリポートアワード」は、アニュアルリポートの充実と普及を目的に実施されており、100名以上のファンDMAネージャーやアナリストの方々が審査を行います。当社のリポートは、社長のメッセージが明快で分かりやすい点などが評価され、受賞12社の1社に選ばれました。



アニュアルリポート
2009和文（簡易版）

▶ ホームページからご覧いただけます。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/annual/annual2009/index.html>

3 風力発電事業への本格参入に向け、エコ・パワー（株）の株式を取得

当社は、(株)荏原製作所から、風力発電事業を営む子会社、エコ・パワー（株）の株式（98.8%）を取得しました。同社は、日本における風力発電事業のパイオニアであり、長年の経験に基づく豊富な開発力・技術力とともに、風況の良い東北・北海道に数多くの風力発電設備を所有しています。当社は2004年から、山形県酒田市で「コスモ石油酒田風力発電所（1,500キロワット）」の営業運転を行ってききましたが、今後の風力発電事業への本

2 堺製油所のコーカー群建設が完了

2008年6月より堺製油所で進めてきた重質油分解装置（コーカー）群の建設が完了し、2月18日に竣工式を行いました。コーカー群の稼働により、重油留分が多い低コストの重質原油から軽油や灯油を生産することが可能になります。これにより重油の需要減少などといったマーケット動向に合わせた生産・供給を行い、製油所の競争力を高めます。



竣工式でのテープカットの様子

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_100218/index.html

格参入に向け、エコ・パワー（株）をグループ会社としました。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_100209/index.html

●エコ・パワー株式会社の概要

設 立	1997年7月
事業の内容	風力発電による売電事業、発電設備保守
発電サイト数	25サイト
発電設備基数	130基
総発電能力	147,000キロワット

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
期末配当金 3月31日
支払株主確定日
中間配当金 9月30日
支払株主確定日
1単元の株式の数 1,000株
株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社
東京都港区芝三丁目33番1号
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目
8番4号
電話照会先 中央三井信託銀行株式会社証券代行部
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行の全国
各支店ならびに日本証券代行株式会
社の本店及び全国各支店で行って
おります。
公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができ
ない事故、その他やむをえない事由
が生じた場合は、日本経済新聞に掲載
します。
公告掲載URL
[http://www.cosmo-oil.co.jp/
ir/notice/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html)
上場取引所 東証一部・大証一部・名証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等 のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設され
ました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央
三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社
にお申し出ください。

コスモ石油株主通信『シーズ・メール』65号

発行/コスモ石油株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室 〒105-8528東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL.(03)3798-3180 FAX.(03)3798-3841
ホームページ <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様にも、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。
